

Log4j 脆弱性対応 手順書

以下の内容をご確認の上、適用作業を行ってください。

適用可能ソフト	EDI-Master B2B TLS-Accelerator （以下 B2B TLS-Accelerator）
適用可能バージョン	【a】 1.0.0.0、1.0.0.1 【b】 1.0.1.0、1.0.1.1 【c】 1.1.0.0、1.1.0.1 【d】 1.1.1.0 【e】 1.1.2.0
パッチファイルバージョン	適用可能バージョン 【a】 【b】 …1.0_Log4j 脆弱性対応 適用可能バージョン 【c】 【d】 …1.1_Log4j 脆弱性対応 適用可能バージョン 【e】 …1.1.2_Log4j 脆弱性対応
作業時間目安	30 分～60 分 （クラスタ環境の場合はノード数に応じて時間目安は変わります）

！！作業前にご注意ください！！

- ・ パッチ適用作業は、時間に余裕を持って行ってください。
- ・ パッチ適用作業は、管理者権限のあるユーザ（Linux の場合はroot）でログインして行ってください。
- ・ パッチ適用作業を行う前に、「バージョン・ライセンス情報」画面の製品バージョンの表示が、適用可能バージョンである以下のいずれかであることを必ず確認してください。

- ・ Ver1.0.0.0、1.0.0.1
- ・ Ver1.0.1.0、1.0.1.1
- ・ Ver1.1.0.0、1.1.0.1
- ・ Ver1.1.1.0
- ・ Ver1.1.2.0

（→取扱説明書「第6章 バージョン・ライセンス情報」を参照）

- ・ B2B TLS-Acceleratorと連携している通信ソフトやアプリケーションが存在する場合、必要に応じて適用作業前にそれらを停止してください。

！！クラスタ環境でご利用のお客様へ！！

- ・ クラスタ環境でB2B TLS-Acceleratorのサービスを操作する場合はフェールオーバークラスターマネージャー上でリソースのオンライン、オフラインを行ってください。

はじめに

パッチ適用手順はご利用中の B2B TLS-Accelerator のバージョンによって異なります。該当するバージョンの手順を参照してください。

＜Ver1.0.0.0～1.0.1.1 をご利用中の場合＞

本手順書内の「1 B2B TLS-Accelerator Ver1.0.0.0～1.0.1.1 の対応手順」を参照してください。

※ 適用可能バージョン【a】【b】が対象です

※ 「2 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.0.0～1.1.1.0 の対応手順」および「3 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.2.0 の対応手順」の実施は不要です

＜Ver1.1.0.0～1.1.1.0 をご利用中の場合＞

本手順書内の「2 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.0.0～1.1.1.0 の対応手順」を参照してください。

※ 適用可能バージョン【c】【d】が対象です

※ 「1 B2B TLS-Accelerator Ver1.0.0.0～1.0.1.1 の対応手順」および「3 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.2.0 の対応手順」の実施は不要です

＜Ver1.1.2.0 をご利用中の場合＞

本手順書内の「3 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.2.0 の対応手順」を参照してください。

※ 適用可能バージョン【e】が対象です

※ 「1 B2B TLS-Accelerator Ver1.0.0.0～1.0.1.1 の対応手順」および「2 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.0.0～1.1.1.0 の対応手順」の実施は不要です

パッチ適用は以下の手順で実施します。詳細な手順は各章を参照してください。

1. パッチの適用
2. パッチの適用の確認

注意

- 万が一パッチ適用前に戻す必要がある場合は各章の【パッチ適用前に戻す場合】を参照してください。
- インストールディレクトリ（以下、<B2B TLS-Accelerator インストールディレクトリ>と表記）の初期値を
 - ・ Windows 版 : “C:\NTS\B2B_TLS-Accelerator”
 - ・ Linux 版 : “/opt/B2B_TLS-Accelerator”としています。以降の説明では適時読み替えてください。
- 以降の説明では B2B TLS-Accelerator を起動するための以下のサービスを、『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』とします。
 - ・ Windows 版 : リソース名、およびサービス表示名: “EDI-Master B2B TLS-Accelerator”
 - ・ Linux 版 : サービス名: “B2B_TLS-Accelerator_tomcat”

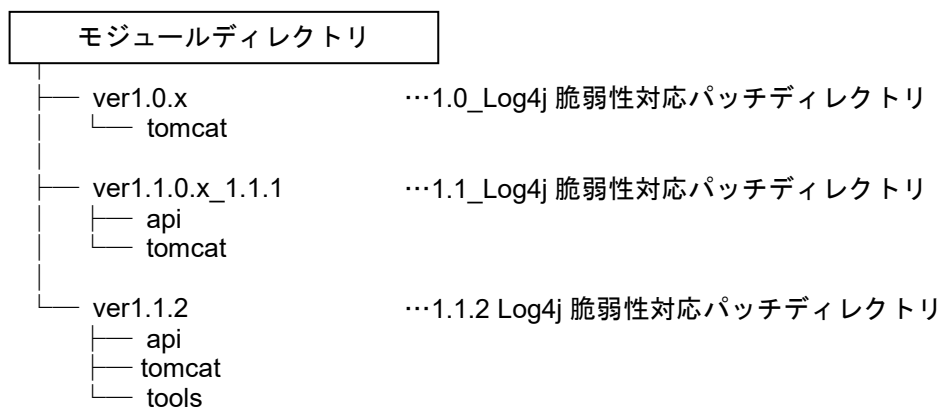
クラスタ環境（WSFC）での説明では、“その他のリソース”で表示されるリソース名はサービス表示名と同一としています。ご利用の環境に合わせて読み替えてください。

以下が本パッチでの適用対象ファイルです。

パッチ適用対象ファイル名	バージョン		
	1.0_Log4j 脆弱性 対応	1.1_Log4j 脆弱性 対応	1.1.2 Log4j 脆弱 性対応
api¥lib¥	—	—	—
log4j-1.2-api-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
log4j-api-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
log4j-core-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
tomcat¥home¥lib	—	—	—
log4j-1.2-api-2.16.0.jar	○	○	○
log4j-api-2.16.0.jar	○	○	○
log4j-core-2.16.0.jar	○	○	○
log4j-web-2.16.0.jar	○	× (※1)	○
tomcat¥home¥webapps¥ebta¥WEB-INF¥lib	—	—	—
log4j-1.2-api-2.16.0.jar	○	○	○
log4j-api-2.16.0.jar	○	○	○
log4j-core-2.16.0.jar	○	○	○
log4j-web-2.16.0.jar	○	○	—
tomcat¥home¥webapps¥webapi¥WEB-INF¥lib	—	—	—
log4j-1.2-api-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
log4j-api-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
log4j-core-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
log4j-web-2.16.0.jar	× (※1)	○	○
tools¥lib	—	—	—
log4j-1.2-api-2.16.0.jar	× (※1)	× (※1)	○
log4j-api-2.16.0.jar	× (※1)	× (※1)	○
log4j-core-2.16.0.jar	× (※1)	× (※1)	○

※1 パッチに含まれないファイルです

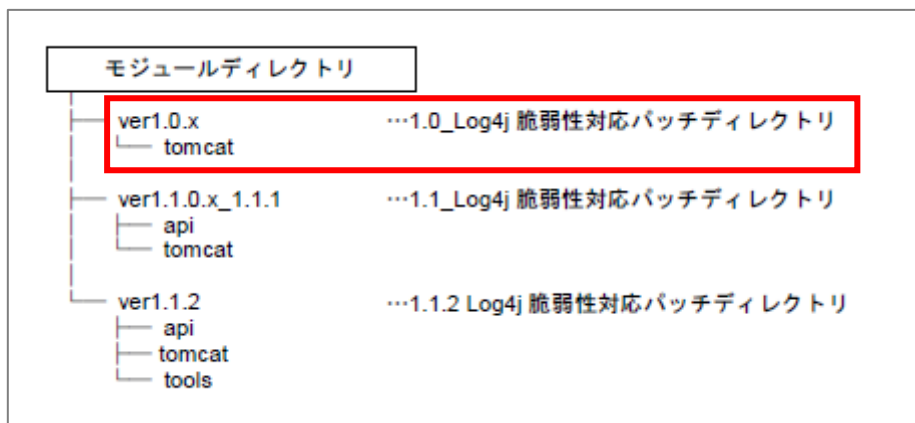
以下は本パッチで提供するモジュールのディレクトリ構成です。



1 B2B TLS-Accelerator Ver1.0.0.0～1.0.1.1 の対応手順

1-1 パッチの適用

本章で使用するパッチファイルは、「ver1.0.x」フォルダ内のものを使用してください



1-1-1 パッチ適用前準備作業

- ① パッチ適用作業の前に以下のディレクトリをコピーし、別の場所に退避します。

・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home”

※今後元のバージョンに戻す際に必要です。バックアップは大切に保管してください。

- ② B2B TLS-Acceleratorにログインします。

(→ログイン方法は、取扱説明書「第6章 6-1-1 ログイン」を参照)

- ③ 連携する通信ソフトやアプリケーションが実行中でないことを確認します。
- ④ パッチ適用作業の前に設定をバックアップします。完全にパッチ適用作業が完了するまで、バックアップ環境を保管します。

(→バックアップ方法は、取扱説明書「第7章 7-2 設定情報のバックアップ」を参照)

- ⑤ 使用しているすべての待受けポートを停止します。

(→待受けポートの停止方法は、取扱説明書「第6章 6-2-1 「待受けポート設定一覧」画面」を参照)

- ⑥ B2B TLS-Acceleratorの画面を閉じます。

- ⑦ 『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』を停止します。

(→サービスの停止方法は、取扱説明書「第4章 4-2 TLS-Acceleratorの停止方法」を参照)

注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードの『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』をオフラインにしてください。

1-1-2 パッチの適用

- ① ご利用中の B2B TLS-Accelerator の“<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>”配下にある、以下のディレクトリからファイルを削除します。「log4j-XXX-2.9.1.jar」という名前のファイルが対象です。

格納ディレクトリ	削除対象ファイル名
tomcat¥home¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
	log4j-web- 2.9.1 .jar
tomcat¥home¥webapps¥ebta¥WEB-INF¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
	log4j-web- 2.9.1 .jar

- ② 提供したモジュールディレクトリ内の以下のディレクトリを“<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>”に上書きコピーしてください。
- ・ “ver1.0.x¥tomcat” ディレクトリ



注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードに対してパッチの適用を行ってください。
- フェールオーバークラスターマネージャーの設定を再度行う必要はありません。

- ③ Linux 版の場合は上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

```
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./tomcat/home/lib
chown -R edi_master:root ./tomcat/home/lib
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator/tomcat/home/webapps
chmod -R 775 ./ebta/WEB-INF/lib
chown -R edi_master:root ./ebta/WEB-INF/lib
```


1-2 パッチの適用の確認

- ① インストールディレクトリ内に以下のファイルが存在することを確認してください。また、ディレクトリ内に「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」という名前のファイルが存在しないことを確認してください。

ディレクトリ/ファイル名
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%tomcat%home%lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
log4j-web-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
log4j-web-2.16.0.jar

- ② 『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』を起動してください。

(→サービスの起動方法は、取扱説明書「第4章 4-1 TLS-Acceleratorの起動方法」を参照)

- ③ 使用しているすべての待受けポートを開始します。

(→待受けポートの開始方法は、取扱説明書「第6章 6-2-1 「待受けポート設定一覧」画面」を参照)

- ④ B2B TLS-Acceleratorのサービスを起動後、以下のディレクトリにある2種類のログが出力されます。ファイルの更新日時が更新されていることを確認してください。

<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>¥logs¥program

- ・ trans_program_{ホスト名}.log
- ・ ui_program_{ホスト名}.log

※ {ホスト名} はご利用中の環境のホスト名が出力されます。

※ クラスタ環境の場合は、以下のディレクトリに出力されます。

- ・ <インストール時に指定した共有ディレクトリ>¥logs¥program

- ⑤ パッチ適用後にお客様の環境で動作の確認を行ってください。

注意

クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードで B2B TLS-Accelerator の動作確認を行ってください。

以上で、適用作業は完了です。

本資料に関するお問い合わせは、弊社 EDI サポートセンターまでお問い合わせください。

1-3 パッチ適用前に戻す場合

- ① 【1-1-1 パッチ適用前準備作業】の内容に従ってB2B TLS-Accelerator のサービスを停止してください。
- ② B2B TLS-Acceleratorのインストールディレクトリから以下のディレクトリを削除してください。

- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%lib”
- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib”

- ③ 【1-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。

- ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home”

- ④ 【1-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。

- ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF”

※ Linux版の場合は上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

```
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./tomcat/home/lib
chown -R edi_master:root ./tomcat/home/lib
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator/tomcat/home/webapps
chmod -R 775 ./ebta/WEB-INF/lib
chown -R edi_master:root ./ebta/WEB-INF/lib
```

- ⑤ 【1-2.パッチの適用の確認】の内容に従って、B2B TLS-Acceleratorの各モジュールが適用前のバージョンになっていることを確認してください。
- ⑥ お客様の環境で動作の確認を行ってください。

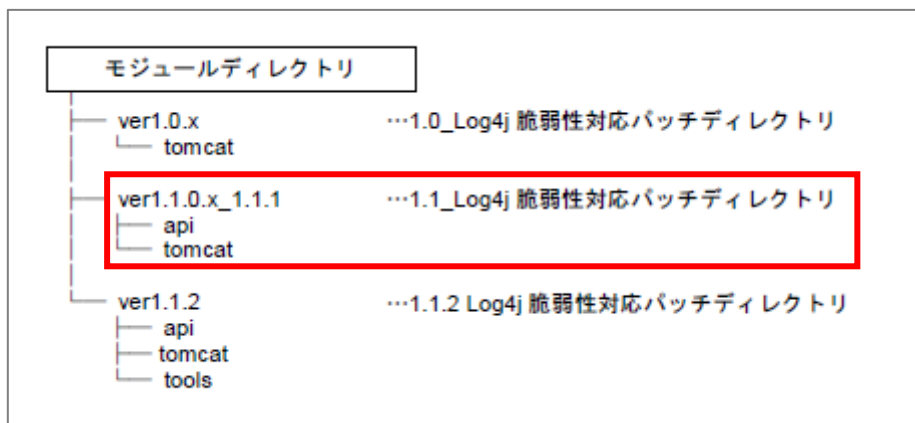
注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードで、パッチ適用前に戻す作業を行ってください。
- すべてのクラスタノードでパッチ適用前に戻す作業を行った後に、【1-2.パッチの適用の確認】の内容に従って、動作の確認を行ってください。
- フェールオーバークラスターマネージャーの設定を再度行う必要はありません。

2 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.0.0～1.1.1.0 の対応手順

2-1 パッチの適用

本章で使用するパッチファイルは、「ver1.1.0.x_1.1.1」フォルダ内のものを使用してください



2-1-1 パッチ適用前準備作業

- ① パッチ適用作業の前に以下のディレクトリをコピーし、別の場所に退避します。

- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api”
- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home”

別PC（運用端末）へAPIをインストールしている場合は、APIのインストール先にある以下のディレクトリをコピーし、別の場所に退避します。

別PC（運用端末）へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

- ・ “<インストール時に配置した任意のディレクトリ>%B2B_TLS-Accelerator%api”

※今後元のバージョンに戻す際に必要です。バックアップは大切に保管してください。

- ② B2B TLS-Acceleratorにログインします。

（→ログイン方法は、取扱説明書「第6章 6-1-1 ログイン」を参照）

- ③ 連携する通信ソフトやアプリケーションが実行中でないことを確認します。
- ④ パッチ適用作業の前に設定をバックアップします。完全にパッチ適用作業が完了するまで、バックアップ環境を保管します。

（→バックアップ方法は、取扱説明書「第7章 7-2 設定情報のバックアップ」を参照）

- ⑤ 使用しているすべての待受けポートを停止します。

(→待受けポートの停止方法は、取扱説明書「第6章 6-2-1 「待受けポート設定一覧」画面」を参照)

- ⑥ B2B TLS-Acceleratorの画面を閉じます。
⑦ 『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』を停止します。

(→サービスの停止方法は、取扱説明書「第4章 4-2 TLS-Acceleratorの停止方法」を参照)

注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードの『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』をオフラインにしてください。

2-1-2 パッチの適用

- ① ご利用中の B2B TLS-Accelerator の“<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>”配下にある、以下のディレクトリからファイルを削除します。「log4j-XXX-2.9.1.jar」という名前のファイルが対象です。

格納ディレクトリ	削除対象ファイル名
api¥lib¥	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
tomcat¥home¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
tomcat¥home¥webapps¥ebta¥WEB-INF¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
	log4j-web- 2.9.1 .jar
tomcat¥home¥webapps¥webapi¥WEB-INF¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
	log4j-web- 2.9.1 .jar

- ② 提供したモジュールディレクトリ内の以下のディレクトリを“<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>”に上書きコピーしてください。
- ・ “ver1.1.0.x_1.1.1¥api” ディレクトリ
 - ・ “ver1.1.0.x_1.1.1¥tomcat” ディレクトリ



注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードに対してパッチの適用を行ってください。
- フェールオーバークラスターマネージャーの設定を再度行う必要はありません。

- ③ Linux 版の場合は上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

```
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib ./tomcat/home/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib ./tomcat/home/lib
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator/tomcat/home/webapps
chmod -R 775 ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
chown -R edi_master:root ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
```

- ④ 別 PC (運用端末) へ API をインストールしている場合は、API にもパッチを適用してください。

別 PC (運用端末) へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

API のインストール先は以下のとおりです。

- “<インストール時に配置した任意のディレクトリ>¥B2B_TLS-Accelerator¥api”
(→API については、取扱説明書「第 3 章 3-2-4 別 PC (運用端末) への API のインストール」を参照)

API のインストール先にある以下のディレクトリからファイルを削除します。「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」となっているファイルが対象です。

格納ディレクトリ	削除対象ファイル名
api¥lib¥	log4j-1.2-api-2.9.1.jar
	log4j-api-2.9.1.jar
	log4j-core-2.9.1.jar

- ⑤ 別 PC (運用端末) へ API をインストールしている場合は、提供したモジュールディレクトリ内の以下のディレクトリを API のインストール先に上書きコピーします。

別 PC (運用端末) へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

- “ver1.1.0.x_1.1.1¥api” ディレクトリ

- ⑥ APIをインストールしている別PC（運用端末）がLinux環境の場合は、上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

別PC（運用端末）へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

```
cd <インストール時に配置した任意のディレクトリ>/B2B_TLS-Accelerator  
chmod -R 775 ./api/lib  
chown -R edi_master:root ./api/lib
```

2-2 パッチの適用の確認

- ① インストールディレクトリ内に以下のファイルが存在することを確認してください。また、ディレクトリ内に「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」という名前のファイルが存在しないことを確認してください。

ディレクトリ/ファイル名
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%api%lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%tomcat%home%lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
log4j-web-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF%lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
log4j-web-2.16.0.jar

- ② 『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』を起動してください。

(→サービスの起動方法は、取扱説明書「第4章 4-1 TLS-Acceleratorの起動方法」を参照)

- ③ 使用しているすべての待受けポートを開始します。

(→待受けポートの開始方法は、取扱説明書「第6章 6-2-1 「待受けポート設定一覧」画面」を参照)

- ④ B2B TLS-Acceleratorのサービスを起動後、以下のディレクトリにある3種類のログが出力されます。ファイルの更新日時が更新されていることを確認してください。

<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>¥logs¥program

- ・ resource_state_{ホスト名}.log
- ・ trans_program_{ホスト名}.log
- ・ ui_program_{ホスト名}.log

※ {ホスト名} はご利用中の環境のホスト名が出力されます。

※ クラスタ環境の場合は、以下のディレクトリに出力されます。

- ・ <インストール時に指定した共有ディレクトリ>¥logs¥program

- ⑤ 別PC(運用端末)へAPIをインストールしている場合は、APIのインストールディレクトリ内に以下のファイルが存在することを確認してください。また、ディレクトリ内に「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」という名前のファイルが存在しないことを確認してください。

別 PC (運用端末) へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

ディレクトリ/ファイル名
<インストール時に配置した任意のディレクトリ>¥B2B_TLS-Accelerator¥api¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar

- ⑥ パッチ適用後にお客様の環境で動作の確認を行ってください。

注意

クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードで B2B TLS-Accelerator の動作確認を行ってください。

以上で、適用作業は完了です。

本資料に関するお問い合わせは、弊社 EDI サポートセンターまでお問い合わせください。

2-3 パッチ適用前に戻す場合

- ① 【2-1-1 パッチ適用前準備作業】の内容に従ってB2B TLS-Accelerator のサービスを停止してください。
- ② B2B TLS-Acceleratorのインストールディレクトリから以下のディレクトリを削除してください。
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api%lib”
- ③ 【2-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home”
- ④ 【2-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF”
- ⑤ 【2-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF”
- ⑥ 【2-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api”

※ Linux版の場合は上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

```
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib ./tomcat/home/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib ./tomcat/home/lib
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator/tomcat/home/webapps
chmod -R 775 ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
chown -R edi_master:root ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
```

- ⑦ 別PC(運用端末)へAPIをインストールしている場合は、APIのインストールディレクトリから以下のディレクトリを削除してください

別PC(運用端末)へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

- ・ “<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%api%lib”

- ⑧ 【2-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。

別PC(運用端末)へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

- ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api”

- ⑨ APIをインストールしている別PC(運用端末)がLinux環境の場合は、上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

別PC(運用端末)へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

```
cd <インストール時に配置した任意のディレクトリ>/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib
```

- ⑩ 【2-2.パッチの適用の確認】の内容に従って、B2B TLS-Acceleratorの各モジュールが適用前のバージョンになっていることを確認してください。
- ⑪ お客様の環境で動作の確認を行ってください。

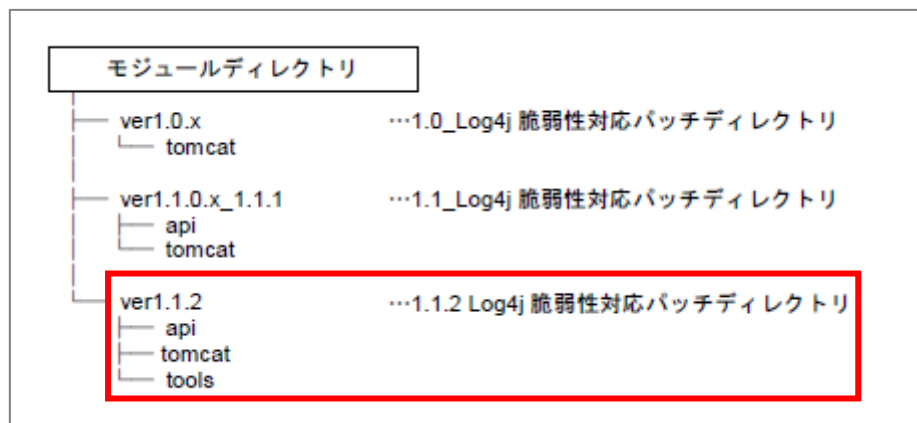
注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードで、パッチ適用前に戻す作業を行ってください。
- すべてのクラスタノードでパッチ適用前に戻す作業を行った後に、【2-2.パッチの適用の確認】の内容に従って、動作の確認を行ってください。
- フェールオーバークラスターマネージャーの設定を再度行う必要はありません。

3 B2B TLS-Accelerator Ver1.1.2.0 の対応手順

3-1 パッチの適用

本章で使用するパッチファイルは、「ver1.1.2」フォルダ内のものを使用してください



3-1-1 パッチ適用前準備作業

① パッチ適用作業の前に以下のディレクトリをコピーし、別の場所に退避します。

- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api”
- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tools”
- ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home”

別PC（運用端末）へAPIをインストールしている場合は、APIのインストール先にある以下のディレクトリをコピーし、別の場所に退避します。

別PC（運用端末）へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

- ・ “<インストール時に配置した任意のディレクトリ>%B2B_TLS-Accelerator%api”

※今後元のバージョンに戻す際に必要です。バックアップは大切に保管してください。

② B2B TLS-Acceleratorにログインします。

（→ログイン方法は、取扱説明書「第6章 6-1-1 ログイン」を参照）

③ 連携する通信ソフトやアプリケーションが実行中でないことを確認します。

- ④ パッチ適用作業の前に設定をバックアップします。完全にパッチ適用作業が完了するまで、バックアップ環境を保管します。

(→バックアップ方法は、取扱説明書「第7章 7-2 設定情報のバックアップ」を参照)

- ⑤ 使用しているすべての待受けポートを停止します。

(→待受けポートの停止方法は、取扱説明書「第6章 6-2-1 「待受けポート設定一覧」画面」を参照)

- ⑥ B2B TLS-Acceleratorの画面を閉じます。

- ⑦ 『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』を停止します。

(→サービスの停止方法は、取扱説明書「第4章 4-2 TLS-Acceleratorの停止方法」を参照)

注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードの『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』をオフラインにしてください。

3-1-2 パッチの適用

- ① ご利用中の B2B TLS-Accelerator の“<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>”配下にある、以下のディレクトリからファイルを削除します。「log4j-XXX-2.9.1.jar」という名前のファイルが対象です。

格納ディレクトリ	削除対象ファイル名
api¥lib¥	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
tomcat¥home¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
	log4j-web- 2.9.1 .jar ※Windows 版のみ削除
tomcat¥home¥webapps¥ebta¥WEB-INF¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
tomcat¥home¥webapps¥webapi¥WEB-INF¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar
	log4j-web- 2.9.1 .jar
tools¥lib	log4j-1.2-api- 2.9.1 .jar
	log4j-api- 2.9.1 .jar
	log4j-core- 2.9.1 .jar

- ② 提供したモジュールディレクトリ内の以下のディレクトリを“<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>”に上書きコピーしてください。

- ・ “ver1.1.2¥api” ディレクトリ
- ・ “ver1.1.2¥tomcat” ディレクトリ
- ・ “ver1.1.2¥tools” ディレクトリ



注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードに対してパッチの適用を行ってください。
- フェールオーバークラスターマネージャーの設定を再度行う必要はありません。

- ③ Linux版の場合は上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

```
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib ./tools/lib ./tomcat/home/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib ./tools/lib ./tomcat/home/lib
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator/tomcat/home/webapps
chmod 750 ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
chmod -R 640 ./ebta/WEB-INF/lib/* ./webapi/WEB-INF/lib/*
chown -R edi_master:edi_master ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
```

- ④ 別 PC (運用端末) へ API をインストールしている場合は、API にもパッチを適用してください。

別 PC (運用端末) へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

API のインストール先は以下のとおりです。

- “<インストール時に配置した任意のディレクトリ>¥B2B_TLS-Accelerator¥api”
(→API については、取扱説明書「第 3 章 3-2-4 別 PC (運用端末) への API のインストール」を参照)

API のインストール先にある以下のディレクトリからファイルを削除します。「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」となっているファイルが対象です。

格納ディレクトリ	削除対象ファイル名
api¥lib¥	log4j-1.2-api-2.9.1.jar
	log4j-api-2.9.1.jar
	log4j-core-2.9.1.jar

- ⑤ 別 PC (運用端末) へ API をインストールしている場合は、提供したモジュールディレクトリ内の以下のディレクトリを API のインストール先に上書きコピーします。

別 PC (運用端末) へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

- “ver1.1.2¥api” ディレクトリ

- ⑥ API をインストールしている別 PC (運用端末) が Linux 環境の場合は、上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

別 PC (運用端末) へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

```
cd <インストール時に配置した任意のディレクトリ>/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib
```

3-2 パッチの適用の確認

- ① インストールディレクトリ内に以下のファイルが存在することを確認してください。また、ディレクトリ内に「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」という名前のファイルが存在しないことを確認してください。

ディレクトリ/ファイル名
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>¥api¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>¥tomcat¥home¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
log4j-web-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>¥tomcat¥home¥webapps¥ebta¥WEB-INF¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>¥tomcat¥home¥webapps¥webapi¥WEB-INF¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar
log4j-web-2.16.0.jar
<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>¥tools¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar

- ② 『EDI-Master B2B TLS-Accelerator』を起動してください。

(→サービスの起動方法は、取扱説明書「第4章 4-1 TLS-Acceleratorの起動方法」を参照)

- ③ 使用しているすべての待受けポートを開始します。

(→待受けポートの開始方法は、取扱説明書「第6章 6-2-1 「待受けポート設定一覧」画面」を参照)

- ④ B2B TLS-Acceleratorのサービスを起動後、以下のディレクトリにある4種類のログが出力されます。ファイルの更新日時が更新されていることを確認してください。

<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>¥logs¥program

- ・ resource_state_{ホスト名}.log
- ・ trans_program_{ホスト名}.log
- ・ ui_program_{ホスト名}.log
- ・ webapi_program_{ホスト名}.log

※ {ホスト名} はご利用中の環境のホスト名が出力されます。

※ クラスタ環境の場合は、以下のディレクトリに出力されます。

- ・ <インストール時に指定した共有ディレクトリ>¥logs¥program

- ⑤ 別PC(運用端末)へAPIをインストールしている場合は、APIのインストールディレクトリ内に以下のファイルが存在することを確認してください。また、ディレクトリ内に「**log4j-XXX-2.9.1.jar**」という名前のファイルが存在しないことを確認してください。

別 PC（運用端末）へ API をインストールしていない場合は、本手順は不要です

ディレクトリ/ファイル名
<インストール時に配置した任意のディレクトリ>¥B2B_TLS-Accelerator¥api¥lib
log4j-1.2-api-2.16.0.jar
log4j-api-2.16.0.jar
log4j-core-2.16.0.jar

- ⑥ パッチ適用後にお客様の環境で動作の確認を行ってください。

注意

クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードで B2B TLS-Accelerator の動作確認を行ってください。

以上で、適用作業は完了です。

本資料に関するお問い合わせは、弊社 EDI サポートセンターまでお問い合わせください。

3-3 パッチ適用前に戻す場合

- ① 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】の内容に従ってB2B TLS-Accelerator のサービスを停止してください。
- ② B2B TLS-Acceleratorのインストールディレクトリから以下のディレクトリを削除してください。
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api%lib”
 - ・ “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tools%lib”
- ③ 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home”
- ④ 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%ebta%WEB-INF”
- ⑤ 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tomcat%home%webapps%webapi%WEB-INF”
- ⑥ 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api”
- ⑦ 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tools%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。
 - ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%tools”

※ Linux版の場合は上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

```
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib ./tools/lib ./tomcat/home/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib ./tools/lib ./tomcat/home/lib
cd /opt/B2B_TLS-Accelerator/tomcat/home/webapps
chmod 750 ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
chmod -R 640 ./ebta/WEB-INF/lib/* ./webapi/WEB-INF/lib/*
chown -R edi_master:edi_master ./ebta/WEB-INF/lib ./webapi/WEB-INF/lib
```

- ⑧ 別PC(運用端末)へAPIをインストールしている場合は、APIのインストールディレクトリから以下のディレクトリを削除してください

別PC(運用端末)へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

- ・ “<TLS-Accelerator インストールディレクトリ>%api%lib”

- ⑨ 【3-1-1 パッチ適用前準備作業】でバックアップした “<TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api%lib” ディレクトリを以下のディレクトリ直下にコピーしてください。

別PC(運用端末)へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

- ・ “<B2B TLS-Acceleratorインストールディレクトリ>%api”

- ⑩ APIをインストールしている別PC(運用端末)がLinux環境の場合は、上書きした後、コピーしたディレクトリの所有者権限、およびアクセス権限が変更されることがありますので、以下コマンドをコンソール画面から実行してください。

別PC(運用端末)へAPIをインストールしていない場合は、本手順は不要です

```
cd <インストール時に配置した任意のディレクトリ>/B2B_TLS-Accelerator
chmod -R 775 ./api/lib
chown -R edi_master:root ./api/lib
```

- ⑪ 【3-2.パッチの適用の確認】の内容に従って、B2B TLS-Acceleratorの各モジュールが適用前のバージョンになっていることを確認してください。
- ⑫ お客様の環境で動作の確認を行ってください。

注意

- クラスタ環境で B2B TLS-Accelerator を利用している場合は、すべてのクラスタノードで、パッチ適用前に戻す作業を行ってください。
- すべてのクラスタノードでパッチ適用前に戻す作業を行った後に、【3-2.パッチの適用の確認】の内容に従って、動作の確認を行ってください。
- フェールオーバークラスターマネージャーの設定を再度行う必要はありません。

おことわり

- Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。